やってみ！チャレンジ

報告書

計画名：醍醐西チャレンジ活動

計画開始日：2019 年 04 月 01 日

計画終了日：2019 年 12 月 22 日

氏名：森川　浩孝(醍醐西小学校)

やってみ！　チャレンジ

京都市立醍醐西小学校

１．計画内容と目的

（１）　計画

①　小学３年生チャレンジ・キャンプ（児童会の児童がリーダーとなり３年生とキャンプを行う。また児童会の児童は，中学校の生徒会の生徒をリーダーとしリーダーの役割等を知る）

②　小学６年生の立山登山

③　全校児童による京都府綱引き大会への参加
　６年生は全国大会予選への参加

（２）　目的

本校の児童の家庭背景は，一人親家庭（約５５％）が多く経済的にも厳しい状況（就学援助率例年 70%～80%）におかれている。児童は成育歴の中で様々な経験や体験の不足。自己有用感・肯定感が低く自分に自信が持てない児童が非常に多い。

そこで一人一人の児童が，様々な経験や体験を通して達成感を味わい自信につなげることにより，どのようなことに対しても自ら意欲的に取り組もうとする力を育むことを目的としている。

２．計画を通して感じたこと

計画①の取組をはじめて４年目になる。３年生児童にとっては，初めての宿泊学習で野外炊事など初めて体験する児童がほとんどである。そのため５年生，６年生の児童会の児童がグループリーダーとなって３年生のサポートにあたるようにしている。４年目を迎えることにより，児童会の児童も３年生の時に児童会のリーダーにお世話になった経験がある。

その経験が活かされ自らがリーダーとなった時に，３年生の児童にどのように関わり，グループをまとめていけばよいかを考え行動できつつあった。

また中学校の生徒会の先輩も参加してくれていることにより，リーダーとしての責任や役割を学べる機会と考えている。

計画②の取組は５年目を迎える。この取組は，児童の経験拡充はもちろんであるが，達成感を味わわせるために取組を行っている。

富山県の室堂平から一の越を経て雄山に向けて３時間余

りの登山を行い，標高３００３ｍの頂上を目指して自分に負けないで頂上にたどり着くことから得られる達成感，充実感をねらいとして取り組んでいる。

一の越から雄山にかけての岩場は，身体全体を使って登らなければならず，児童にとっては体力的に厳しい場合もある。そのような中，共に励まし合い気づかい登り続け頂上に立った時の児童の顔は，やりとげたという充実感に満ち溢れていた。

計画③も取組をはじめて５年経過している。１年生から６年生まで，全校の児童を対象に京都府綱引大会に参加するために，大会の２か月前から各学年で練習に取り組みだす。チームのみんなが力を一つにし綱を引くためには，ポジションどりやメンバーのバランスなど練習を通して試行錯誤していくうちチームの連帯感が自然と芽生えてくる。

勝利を最優先するような取組ではなく，互いに協力し継続し努力する中で結果として喜びや悔しさを味わってほしい。

全国大会に連続で出場していく中で，６年生の児童の中に『今年も全国大会に出場し，東京に行くぞ。』という思いが芽生え，目標をもって綱引きに取り組むようになってきた。

全国大会は各都道府県から予選を勝ち上がってきたチームが出場するため，簡単に勝つことができないのは当たり前である。自分たちより強いチームと対戦することにより，得られることは多いと考える。

そのような中で，今年度は３位決定戦で最後まで勝負を諦めなかった結果，対戦チームに粘り勝ちすることができた。

勝敗が決した時，児童自身はいったい何が起こったのか。どちらが勝ったのか分からない様子だった。審判に勝利を伝えられた時，嬉しさと驚きを爆発させていた。

本校が取り組んでいる３つの計画は，様々な経験を通して児童に潜在している力を信じ，それを引き出そうとする気持ち。そして諦めず取り組める粘り強さを育もうとしている。

３．経験を今後にどのように生かすか

目的の欄にもあるように，本校の児童は家庭の経済的な条件等における学習面や生活面の基礎を支える経験や体験の不足や，成育歴の中で育まれなければならない自己肯定

感や自己有用感の低さなど，子ども一人では解決できない課題を抱えさせられており，自分にはできないから・難しいから無理といったように，何事に対しても取り組む前から諦めたり取り組もうとしない傾向が強い。

このような実態の児童が課題を克服していくため，様々な取組を継続し進めていく中で，児童一人ひとりに「やれば　できる」という自信が実感を通して芽生えつつあると思う。

今年度は一枝会の情熱教育支援制度のご支援を得ることができたため，公費で補えないものを整備することができた。

環境が整ったことにより，次年度以降も本校の児童が抱えさせられている課題を克服し，児童一人一人が自らの自己実現に向け意欲的に取り組んでいこうとする力を育めるよう取組を継続していこうと考えている。

4．希望する方へのアドバイス

公立学校の予算では，取り組みたくても予算面で断念せざるを得ないことが多い。そのような中，一枝会の情熱教育支援制度は，予算内で比較的自由に活用できることが強みである。

この制度により，本校でも公費で賄えないものや個人に負担をかすことが厳しいものなどに活用できた。そのことにより子どもたちに活動するための環境や条件が整備し，本校の児童の課題を克服していくための取組が充実できた。

この制度を希望される場合は，一回だけのイベント的な取組ではなく目的を明確に継続して取り組んでいける取組に活用していくことが最適であると考える。

5．支援金の使途

別紙